

# 社会貢献活動（地域ボランティア活動）の実施報告

（一社）函館林業土木協会

活動内容	活火山の駒ヶ岳において緊急避難路の整備を実施
1 実施年月日 : 平成28年6月28日 2 実施場所 : 北海道茅部郡鹿部町駒ヶ岳国有林 渡島森林管理署管内 駒ヶ岳尻無沢流域緊急避難路 3 参加会員数 : 25企業及び事務局から48人が参加 渡島森林管理署から新屋敷署長外3名が参加 4 活動内容 :	<p>大沼国定公園のシンボリック的存在でもある北海道駒ヶ岳は、有史以降においても1640（寛永17）年の山体崩壊を伴う大噴火をはじめ、近年では平成12年の小噴火まで、大小の噴火を繰り返し、降灰やその後の泥流等により周辺地域に大きな被害を与えてきました。</p> <p>駒ヶ岳のほぼ南半分に位置する国有林を管理する渡島森林管理署では、山頂直下からのガリ浸食が大きさを増していることや噴火に備えた、泥流、土石流対策として平成5年から本格的・総合的な治山事業に着手し、会員企業も安全・安心な国土づくりに協力しているところです。</p> <p>駒ヶ岳は過去の噴火事例からも、その前兆を把握することが難しく、何らかの異変を感知してから短時間で噴火に至る特徴があるといわれており、治山工事施工や各種観測機器の点検、火山調査等で入山している方々が、有事の際に安全・迅速に避難できる態勢が求められています。</p> <p>このため、森林管理署では、流域毎に迅速に避難できる「緊急避難路」を設置していますが、このうち尻無沢流域の避難路が、車道への灌木の繁茂や側方からの枝葉の張り出しが著しく、車両走行が困難になってきたことから、緊急避難路としての機能維持を図ることとしたものです。</p> <p>当日は、協会関係者48名と当地を管理する渡島森林管理署から新屋敷署長外3名の参加を頂きました。久しぶりに青空が広がる好天に恵まれた中、渡辺会長から「駒ヶ岳の作業関係者にとって避難路は、使うことのないのが最善だが、万一の際には、命を守る重要な路線。安全作業でしっかり整備を。」と活動の趣旨の説明と安全作業の徹底を要請した後、新屋敷渡島森林管理署長から感謝を込めたご挨拶を頂き、早速作業に取りかかりました。</p> <p>会員は、ナタやノコギリ、剪定バサミなど道具を駆使し、約900mの区間にわたって、灌木の除去や枝葉の切除を丁寧に行い、緊急時には車両で安全・確実に避難できるよう整備作業を行いました。</p> <p>当協会では、「様々な機会を捉えて、今後も、地域に根付いた活動を継続する。」（渡辺会長）こととしています。</p>
活動写真	
	

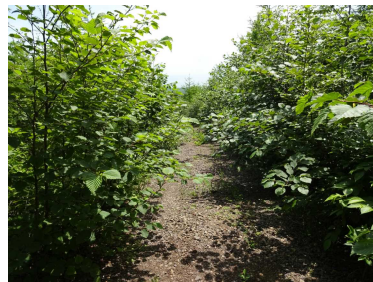
渡辺会長挨拶

新屋敷渡島森林管理署長挨拶



会員各企業から46名が参加

(整備作業前の状況)



昭和4年の大噴火などの度重なる噴火により、当地を含む山体一帯は長い間裸地化していたが、噴火活動が沈静化するに従い、カラマツやハンノキ類、カンバ類などが旺盛に生育するなど、植生も山頂に向かって力強く回復しており、作業前の避難路は、車両の走行が困難な状況になりつつあった。

(作業の様子)



(作業実施後の状況)



整備作業終了後は、見通しも良くなり、緊急時には車両による安全で迅速な避難が確実にできるようになった。